

南砺市広聴事業

なんと未来ミーティング（外国人）

運営業務委託 報告書

令和5年8月31日



公益財団法人

南砺幸せ未来基金

1. 事業概要

なんと未来ミーティングは、まちづくり基本条例に基づき「対話による協働のまちづくり」を進めるために、異なる視点や経験を持つ人々とのコミュニケーションを通して相互理解の促進と課題解決に向けて政策への反映を目的として実施するもの。

(1) 背景

対話による協働のまちづくりにおいて、文化が異なることによって生じる様々な違いを理解し、相互理解を深めることは非常に重要である。南砺市内在住の外国人の方は増加傾向にあるが、日本語の習熟度によっては相談窓口へ来て相談すること自体に困難を抱えていることもあり、既存の方法では外国人の方々の生活実態や困りごとなど、現状を十分に把握できている状況とはいえない。現状（課題やニーズ）を理解し、どのような支援が必要とされているかを知り、南砺市内在住外国人支援へ市の施策へ活かすために本事業を実施するものである。

(2) 目的

今回は、テーマを『子育て』とし、自国とは異なる文化の中で子育てをしておられる南砺市在住外国人の方に、日頃から感じている「子育てに関する困り事やご意見」等について聴くことを第一の目的とした。

異文化の中で子育てをするときには、子育てに対する考え方、文化、習慣など多方面わたり様々な違いがある。それらは国によってのみならず、各家庭によっても異なるため、本事業の参加者の声を通じて、今後の市の施策として支援体制や、解決方法の在り方などについて検討するために開催する。

2. 実施概要

外国人のための日本語教室を定期的で開催するボランティアグループ『にほんご広場なんと』の協力を得て、教室に参加されている外国人を中心に現状の把握を行った。

今回は特に「子育て」をテーマとし、「子育てに対する価値観」・「子供の成長や教育」・「子育てと働き方」など、多面的に話を伺った。外国人支援を実施している諸団体（にほんご広場なんとサポーターとの）とも連携することで、母国語でも話ができるよう各テーブルごとに通訳を配置、言葉の壁をできる限り低くし、コミュニケーションを取りやすい場づくりに努め、在住外国人の方々の率直なお気持ちを伺うことができるよう工夫した。

日時：令和5年度8月6日（日）9時半～11時半

場所：南砺市福野体育館（会議室1）

テーマ：子育てで困っていること、悩んでいること

対象者：南砺市在住の子育て中または子育て経験者

参加者：21名

国籍：中国（8名）、ブラジル（2名）、ベトナム（2名）、
フィリピン（9名）、日本（1名）

2023 外国人向け なんと未来ミーティング
子育てで「困っていること」「悩んでいること」をお話しませんか?
Do you have any problems with raising children?
Come talk to us about your parenting concerns!
参加できる人 南砺市に住んでいて子育て中・子育て経験のある外国人とその家族
※11時30分までお子さまを会場内の保育室にあずけることができます。
いつ 8月6日(日) 午前9時30分～11時30分
どこ 南砺市福野体育館 会議室1
南砺市寺家321番地-1
おかげ ¥0 (おかげはかりません) もうしこみ
問合せ先 南砺市 情報政策課 広報統計係
〒931-1692 南砺市 見本1550 (南砺市役所4階4号) TEL 0763-23-2002
にほんご広場なんと

(1) 当日の流れ

- ① 母国語ごとにグループに分かれて着席。(各テーブルには通訳と運営ボランティアがつく)
- ② 南砺市在住外国人(子育て中)の方に、ご自身の体験についてお話ししてもらう。
- ③ 参加者一人一人が、ご自身のライフイベント、子育てイベントについて考える
(にほんご広場なんと代表よりスライドを用いて説明)
- ④ 各グループ内での意見発表・意見交換(前半)
「子育てにおいて困っていること、困っている時どうしたか」
- ⑤ グループごとに**途中発表**
- ⑥ 各グループ内での意見交換(後半)
「希望すること」
- ⑦ **全体発表**
- ⑧ 南砺市長からのメッセージ
- ⑨ 南砺市からのお知らせ(南砺市HPと防災グッズの紹介)

(2) 参加者の意見

質問1：子育てにおいて困っている事／困ったこと

■グループ1

- ・南砺市内の保育園入園する際、自由に選べなかった
(就労の条件があるため、保育園へ入園できず、幼稚園へ入園した)
- ・小学校入学する際、先生とのコミュニケーションに不安(言葉が心配)がある
- ・コロナ蔓延時に出産が心配だったが、近いところを会社の人が教えてくれた
- ・病院での出産に不安はなかった
- ・小学校で外国人を理由にいじめられないか心配があった
- ・いじめなどがあつたとき、相談体制はあるのか?その解決方法も気になる
- ・成長するにあたり恋愛とかも心配
- ・日本語がわかって、日本の文化はわからない
- ・自分から積極的に関わる手段として、地域の除雪に積極的に参加するようにした
- ・近所の名前がわからない。よく知らない、関わりのない人とは話せない。言葉の壁がある
- ・相手の名前を知らないと恥ずかしくて話しかけられない

※それぞれの社会の持つ文化は、価値観や行動にも影響を与えているため、人々の生活の前提となつて
いることが多くあります。日本社会の中にある文化や慣習がわからないことで、地域コミュニティの中
に入ることをためらう様子も見受けられました。

■グループ2

- ・保育園からもらう「お便り」の内容がわからない
→フリガナをふってもらうだけでもわかるようになる
- ・子どもが友達をつくれなことが心配
→大きくなるにつれて友達の数がどんどん減っているのが心配。(いじめではない)
- ・子どもがいじめられる(親が外国人ってことで)
- ・人間関係は大切だと思っているが、難しいとも感じている
- ・子どもの反抗期が大変(学校には行かないが、公園やカラオケには行って遊ぶ)
→フィリピンは反抗期の子はいない、なぜ反抗しているのか?理由を知りたい
→子供が何を思っているのか?(お母さんが外国人だと思っているから私には言ってくれないのか)
- ・進学に関する心配・経済面の心配
→お金がないから今後の生活や子ども進学の費用が心配
→外国人はパート勤務の方が多いと思う。
→日本の教育費は高いと聞くと、どうやって受けさせていけるか?
→仕事を休んだらその分、お給料が減る。
- ・知人の子どもが不登校になっている
→相談できる人がいるのか?(お友達でも家族、または心の内まで話せる相手)
→不登校になってしまったとき、子どもの進路について分からないことが多い
→先生と話しても、話の内容が分からないということを言えないままで相談できない
→支えてくれる家族、そうでない家族もある。

※日本人であっても外国人であっても、子どもの将来・進路のことや、不登校のことなど心配事は同じようにあることがわかりました。しかし、言葉の壁(日本語の習熟度)や日本の教育制度への理解度の違いがあることによって、不安なことや心配なことを、本音で質問したり相談したりすること自体が難しくなっています。繊細な話題の場合は、特にコミュニケーションをとることも難しく感じられ、相談ができなくなってしまうこともあるようです。

■グループ3

- ・言葉の壁を感じるようなとき(保育園のお便りが読めず、書いてあることがわからない)
→漢字に読み仮名がふってあるだけでも読める(調べることができる)
- ・手書きは変換アプリが使えない
→手書きは翻訳アプリが使えない(連絡帳など)
- ・自分は保育園コミュニケーションアプリで楽になった。(ただしアプリは日本語、英語、ポルトガル語のみ。
→中国語、ベトナム語などいろんな言語あればいいと思う)
- ・保育園のスマホアプリ『こどもん』は日本語のみ対応している
- ・日本の法律制度など日本のルールがわからない
- ・子どもはまだ日本語うまく話せないで、不安がある(日本に来て数年)
→子どもの日本語の習得は心配ない
→子供は1年も経てば言葉は覚える(話せる)(大人はそうでもない)
- ・友達がつけれないのではないか

- ・子どもがいじめられたりしないかと思うと不安がある
- ・小学校への学費はどれくらいなのか？高い？
→小学校・中学校お金かからない。給食費のみ必要
- ・妻は日本人。子育てで困ったことはないが、子育てを妻に任せっきりだったので、代わりに自分（夫）は、小学校から9年間 PTA やっている。（小学校～高校まで）
- ・にほんご広場なんと（日本語教室）に通っていた
→自分から積極的に学ぶことが大切
- ・子どもとは、小学生くらいまでは親子で話ができる。中学校から（反抗期になって）話を聞いてくれなくなった。中学校で勉強していなかったのだが、高校生になって、本人から中学生のときに「もっと勉強しろ」と言ってほしかった、と言われた。
- ・家の中では母国語で話すことがいいと思う
- ・家の中は本国の言葉をいっぱい使ってあげてほしい。でないと、子供が本国の言葉を忘れる
→日本語は学校で覚える。本国の言葉は、家の中で

※日本に来てまだ日の浅い方の不安に対して、在住期間の長い方が、不安の解消できるよう積極的アドバイスされたりする姿が印象的でした。このような機会（南砺市に住む外国人の方が、同じテーマで話をする）をつくるのが、在住外国人の助けになるのではないかと感じました。

■グループ4

- ・予防接種を忘れてしまう→中国と日本で別々に受けたとき、どれを受けたのかわからない。
- ・休日に病気した場合どうすればよいか
- ・市報はあまり読まない
- ・仕事中に子供が病気になり、誰かが休まなければならない時
- ・子供用品は休日に夫が砺波に買い物に行く
- ・移動手段がない
- ・子どもが病気の時
- ・冬の道路状況が悪い
- ・文化イベント（七・五・三など）の違い
- ・日本と中国で教育方法が違う
- ・子どもが食事も含め、学校になじめるか不安
- ・学校に持っていかなければいけないものは、何を買えばよいかかわからない
- ・学校で通訳がみつからない（人材バンクがあれば親として選びたい）
- ・途中入学する際に不安がある

※日本で生活するうえで、誰もが遭遇する可能性のある「ちょっとした困り事」も、言葉の壁があったり、気軽に聞ける場や機会がないことで、解決策や不安を解消する方法を知る手段がない、ということも分かりました。お話の中から、社会のコミュニティ（日本人）とのつながりを持つことによって、疑問や不安を解消できるようになることもあるのだと思います。そのようなコミュニティ（つながり）に入る方法がない（分かりにくい）こと自体にも課題があるように思います。

質問2：困った時はどうしましたか？

- ・ネットで調べる
→検索するにも調べる内容がわからない（日本語で検索の仕方も分からない）
- ・日頃から関りのある人にきく（関りのある人でないと話しにくい）
→仕事の人が話しやすい
- ・知人、同じ国の人、にきく
- ・近所の人に聞く
→人に聞くとときも、ネットである程度調べてから聞くと効率的
- ・わかる人に聞く
- ・市役所の担当部署へ聞きに行く
- ・経験者に聞く
- ・友達、職場、親戚、近所の方に聞く
- ・言葉が通じない場合はジェスチャーで伝える
→特に緊急のとき、家族が不在時には近くの人に伝える
- ・経験した人に聞く
- ・リスペクトできる人に聞く
- ・SNS（Facebook）を利用する
- ・日本の文化、考え方をきく、知る（慣れてくる）
- ・文化は違うもの、日本の文化を理化する事が必要
- ・ママ友をいっぱい作って、分からないオーラを出して、何でも聞いた（教えてもらった）
- ・相談できること、相談しにくいことをどこにいけばいいのかと悩んでいた。
- ・窓口があればうれしい
- ・友達（中国）に聞く（日本人は言葉の壁がある）
- ・家族（義母）、友達（中国）へメールするor中国の母へ心配かけたくないの相談できない
- ・インターネットで同じ悩みの人がないか検索

質問3：あったらいいなと思うものはなんですか？

- ・窓口サポート開設
→気軽に聞ける相談センターがあればいい
- ・教育に関する相談をしたい
- ・会社の同僚へ相談（子供の年代が同じ）
- ・ママ友（地域クラブ）、学校の先生に相談



(当日の様子) 母国語が同じ方々でグループになってもらいました

① 南砺市在住外国人（子育て中）の方のお話をみんなで聞いています



(写真右：にほんご広場なんと代表前田啓子さん)

② グループになり、いろんな経験をもとに話をさせていただきました。



③ グループで出た意見を全体に発表してもらいました



今回、お集まりいただいた方々は、①出身国、②有職の有無、③日本語習熟度の他にも

ア.日本人（男性）と外国人（女性）の夫婦

イ.日本人（女性）と外国人（男性）の夫婦

ウ.外国人同士の夫婦

各家庭の状況によって、抱えておられる困りごとの質と量、困難さに違いがあるように見受けられました。また、関わりのある人や所属できているコミュニティの有無によって、課題の解決手段や方法に多くの差があるように感じます。これらのことから、外国人の方々が地域の中に入っていくことが重要だということがわかりました。しかし、それらは外国人の方々の努力だけでは難しく、地域の側の受け入れる力が問われていると感じます。

3. なんと未来ミーティングをまちづくりへ活かすために

本年度の事業では「子育て」とテーマを絞ってご意見を伺いました。日常言語以外を習得する機会も乏しい外国人の方々にとって、日本人にとっては当たり前の言い方や言葉の使い方も、大きな言葉の壁となっていることがわかります。

南砺市に住む外国人の方々は増えています。今回集まっていたいただいた方々は、出身地も年齢も、南砺市に住むことになったきっかけも多様な方々でした。南砺市内に住む外国出身者の数から考えると今回お話を伺うことができた方々は、ほんの一握りの方たちです。

言葉の壁だけでなく、日本の子育ての文化や習慣、教育のシステムなど、様々なことを理由として、つまづきや困難を感じることもあるということも、今回、いろんなお話を伺う事でわかったことです。外国人の方々が日頃お困りのことは、大きなことから小さなことまで多種多様です。今回の事業を通じて、私たち日本人がちょっとした配慮をする（プリントには、読み仮名をつける、手書きではなく印刷した文字で渡す、名前を教える、挨拶をする、など）だけでも、外国人の方々の助けになることがわかりました。

多文化共生社会は、外国人の方のみならず、多様な年代・性別の方々が、互いに文化的背景等の違いを認め、人権を尊重し合い、地域社会の対等な構成員として共に生きる社会のことです。

異文化交流等の相互理解の必要性はかねてから言われているものですが、言葉の習熟度の違いがさらに相互理解を阻んでいることも分かり、もう一步踏み込んだ対応が必要です。外国人の方がもっと地域の中に入っていくことができれば、また、日本人が外国人の方のコミュニティと交わることができれば、相互理解が深まり、互いに協働できる基礎が築かれるように思います。

地域の方からどうやって声をかけ、コミュニティ活動に参加してもらうかについて具体的に考え、行動することで地域の中に新しいコミュニティの在り方が見えてくる可能性があります。地域の困り事にも新たな一手が生まれるかもしれません。

そのためにまずは、現状を知る事から始めることがとても重要です。私たちの地域に暮らす外国人の方がいること、その方々が困っていること、様々な困り事を抱えておられることを知ることから始めることです。

外国人の方々の目線に立ち、今回聴くことができた様々な意見をもとにそれぞれの立場「行政として」、「地域として」、「組織として」、「個人として」できることを考え、具体的に取り組みを進めていくことが、誰一人取り残さない南砺市への第一歩だと考えます。

4. 各メディア掲載

北日本新聞 (令和5年8月8日)

2023年(令和5年)8月8日 火曜日 (地域ニュース) 20

南星JBC代表 石浦さん

市学童野球の歩み一冊に



石浦さん、南星JBC代表の石浦さん(88)が、市学童野球の歩み一冊をまとめた。この本は、市学童野球の歴史や、選手たちの活躍、そして指導者の思いが詰まっています。石浦さんは、市学童野球の発展に貢献したことを誇りに思っています。

石浦さん、南星JBC代表の石浦さん(88)が、市学童野球の歩み一冊をまとめた。この本は、市学童野球の歴史や、選手たちの活躍、そして指導者の思いが詰まっています。石浦さんは、市学童野球の発展に貢献したことを誇りに思っています。

石浦さん、南星JBC代表の石浦さん(88)が、市学童野球の歩み一冊をまとめた。この本は、市学童野球の歴史や、選手たちの活躍、そして指導者の思いが詰まっています。石浦さんは、市学童野球の発展に貢献したことを誇りに思っています。

子育ての悩み語り合う

来米ミーティング 市在住外国籍30人



子育ての悩みなどお話し合う南星市在住の外国人。子育ての悩みなどお話し合う南星市在住の外国人。子育ての悩みなどお話し合う南星市在住の外国人。子育ての悩みなどお話し合う南星市在住の外国人。

富山新聞 (令和5年8月16日)

富山新聞 (令和5年8月16日)

天然アユ塩



天然アユ塩の製造風景。アユの塩を焼く様子。天然アユ塩の製造風景。アユの塩を焼く様子。天然アユ塩の製造風景。アユの塩を焼く様子。

天然アユ塩の製造風景。アユの塩を焼く様子。天然アユ塩の製造風景。アユの塩を焼く様子。天然アユ塩の製造風景。アユの塩を焼く様子。

天然アユ塩の製造風景。アユの塩を焼く様子。天然アユ塩の製造風景。アユの塩を焼く様子。天然アユ塩の製造風景。アユの塩を焼く様子。